

クローバー

医師として、そして父として



脳神経外科部長
日本脳神経血管内治療学会 指導医
ふくしま だいすけ
福島 大輔

2017年に金沢脳神経外科病院に赴任してから、気がつけば9年が経とうとしている。「あつという間だった」と言えばありきたりだが、振り返ると、仕事も家庭も少しずつ形を変えながら、確実に時間が流れてきたことを実感する。

赴任以来、血管内治療を中心に脳血管障害の外科治療に

携わってきた。昨年は森島先生が新たに加わり、血管障害手術の体制もようやく厚みを持たせることができた。症例数も増え、昨年は血管内治療130件を施行し、北陸地方でも一定の役割を担える施設に成長してきたのではないかと感じている。来年度には血管撮影装置の更新も控えており、若い人材を迎えながら、病院全体がさらに活気づいていくことを期待している。

今回は少し視点を変え、金沢に戻ってきてからの自分自身の生活について振り返ってみたい。金沢に戻ってきたのは、長男が小学校に入学するタイミングだった。その長男も、今では高校受験を控える年齢になった。当時は、休日になると家族で出かけたり、温泉に行ったりと、当たり前のように家族全員で時間を過ごしていた。しかし中学校に入る頃から、野球部の練習や試合、友人との時間が増え、家族全員が揃う休日は次第に少なくなっていく。成長の証だと頭では分かっているが、少し寂しさを感じる瞬間もある。

それでも、2016年から続けている夏休みの奄美大島への家族旅行だけは、今も変わらず続いている。子供たちはこの旅行を一年で一番楽しみにしており、長男も「これからもずっと行く」と言ってくれている。その言葉を聞いたたびに、この時間を大切にできてよかったと感じる。

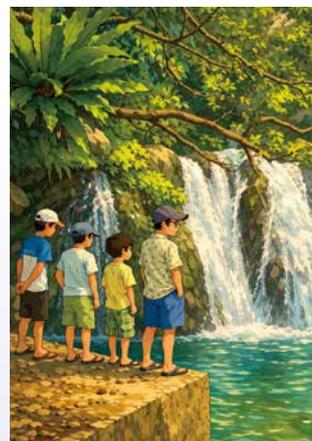
私自身が子供の頃、実家の福島医院には入院患者がいたため、父はなかなか家を空けることができなかった。家族旅行の記憶には、父がいないことの方が多い。唯一覚えているのは、高校入学の年の夏休みに家族全員で行ったハワイ旅行くらいである。もちろん普段は一緒に過ごし、休日にはスキーに連れて行ってくれたが、「父は忙しい」という印象は強く残っている。そうした経験があるからこそ、自分の子供たちとは、できる限り一緒に時間を持たせたいと考えてきた。

今でも、長男と時折釣りに出かけたり、年に数回ゴルフを一緒に回ったりしている。最近の子供たちは、自分の頃と比べると反抗期が少ないのか、あるいは育て方や時代の違いなのか、比較的穏やかな関係を保っているように思う。もっとも、休日や夜間の呼び出しがあると、「また手術?」と言われることもあり、仕事の厳しさを家族に負わせていることを感じる瞬間もある。それでも、医師という仕事については理解してくれている。ただし、「自分はそんな仕事はしたくない」と子供たちが口を揃えて言うのを聞くと、時代が確実に変わってきていることを実感する。

10年後、医療がどのように変わっているのかは分からない。しかし、これからは仕事だけでなく、家庭や自分自身の時間も大切にしながら、無理なく、長く続けられる形で医師としての役割を果たしていきたいと考えている。

さいごに、つくづく、時代の進む速さには驚かされる。

※本誌のイラスト等は生成技術を活用しています。(笑)



奄美大島にて▶

年間100件超の実績。信頼に応える脳血管内治療。

当院では2017年より、脳血管内治療を専門とする医師が常勤として診療にあたっています。以来、低侵襲で高度な脳血管内治療の提供に継続して取り組んできました。脳梗塞に対する血栓回収術や、脳動脈瘤に対するコイル塞栓術など、開頭手術を必要としない治療法の需要は年々高まっており、当院でもその実績は確実に増え続けています。

治療実績は2017年の44件から毎年増加し、近年は年間100件を超える高い水準を維持しています。2025年も131件に達しており、地域において当院の脳血管内治療が高く信頼され、必要とされてきた証といえます。

さらに2025年4月には、新たに脳血管内治療専門医が1名常勤として加わり、2名体制での診療を行っています。これにより、緊急症例への迅速な対応がより確実になるほか、治療方針の検討を複数医で行えるため、より高度で安全性の高い治療提供が可能となりました。

また、医師だけでなく看護師、放射線技師、臨床工学技士、手術部スタッフなど多職種が連携し、脳血管内治療チームが一丸となって患者さんの命を守る医療に取り組んでいます。

当院はこれからも、地域の皆さまが安心して治療を受けられる体制づくりを進め、脳血管内治療のさらなる質向上に努めてまいります。

(件数) 血管内治療(年間件数)



連携登録医のご紹介

医療連携とは

地域の医療機関と金沢脳神経外科病院の相互連携を一層緊密にし、適切で切れ目のない医療の連携を目指し開始された「連携登録医制度」に登録していただいている医療機関の先生方です。

今回は、金沢市八日市出町の「金沢ハートクリニック きたがわ内科」をご紹介します。



当院は1995年に「きたがわ内科クリニック」として開院し、2023年に私が継承しました。2024年4月に名称を「金沢ハートクリニック きたがわ内科」に改め、石川県ではまだまだ少ない心臓・血管系疾患や生活習慣病を専門とするクリニックとして診療を行っています。2025年11月には開院30周年の節目に院内を完全改装し、これまで以上に診療に注力できる環境を得ることができました。

私は卒後研修を愛知県名古屋市で過ごし、2007年から2017年までの10年間名古屋大学の関連病院で経験を積んできました。

主に狭心症や心筋梗塞といった冠動脈疾患や、閉塞性下肢動脈硬化症に対するカテーテル治療を専門とし、特に複雑で一般的なカテーテル手段では治療が困難な患者さんを担当してきました。加えて名古屋大学病院では重症の心不全や心臓移植に関わるお仕事も経験させて頂きました。

この先の日本では、高齢化に伴ってこれまで以上に心臓血管疾患が急増する「パンデミック」が発生すると予測されています。私はこれまで心臓血管疾患をすでに発症した方への治療に心血を注いできましたが、今後はその予防にも努めていかなければいけないと考え、クリニックでの診療を行っています。また、名古屋などの都市部ではすでに一般的な内科の自由診療にも力を入れており、保険診療では賄えない患者様のニーズにお応えしています。

私にとって金沢脳神経外科病院は2017年から2023年まで5年間の間、循環器内科外来のお仕事をさせて頂いた特別な思い出のある病院であります。院長先生はじめ、スタッフの皆様には大変お世話になりました。

これからも金沢脳神経外科病院との連携を大切にし、受診される患者様により良い医療を提供するため努力を続けていきたいと考えております。



院長
北川 勝英 先生



【保有資格】

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
日本循環器学会認定 循環器専門医
心血管インターベンション治療学会(CVIT)認定 カテーテル治療専門医
ロータブレードカテーテル指導医
経カテーテル大動脈弁置換(S3)施行医

【略 歴】

2007年 金沢医科大学 医学部卒業
2007年 名古屋市 中部ろうさい病院 研修医・循環器内科
2013年 半田市 市立半田病院 循環器内科医長
2016年 名古屋大学付属病院 重症心不全・心臓移植グループ研究生
2019年 金沢医科大学 心臓血管カテーテル治療科 助教
2021年 心臓血管センター金沢循環器病院 カテーテル室長
2023年 きたがわ内科クリニック 院長
2024年 金沢ハートクリニックきたがわ内科に名称変更

【診療科】内科・循環器内科・自由診療

【住 所】石川県金沢市八日市出町578

【電 話】076-249-9191

【ホームページ】<https://khc-kitagawanaika.com>

【診療時間】

	月	火	水	木	金	土	日
9:00-12:30	○	○	○	○	○	○	/
14:00-18:00	○	○	○	/	○	※	/

※土曜日の受付時間は9:00～15:00となります。(中休みなし)
休診日：木曜午後、日曜、祝日、年末年始



取材スタッフより

優しいお人柄を感じるあたたかい先生でした 😊



▲ホームページはこちら

令和7年度救急症例検討会を開催しました

当院では、地域の救急医療体制の質向上を目的として、救急隊を対象とした「救急患者症例検討会」を定期的に開催しています。

本検討会では、実際の救急症例をもとに、病院と救急隊が連携しながら意見交換を行い、現場対応や初期判断の共有を図っています。

令和7年12月4日、令和7年度救急症例検討会をハイブリッド形式で開催しました。

当日は、2名の救急隊員の方に症例発表を行っていただきました。

■ 症例①

白山野々市広域消防本部 松任消防署

「前日に頭痛・めまいがあり、翌日に右上下肢のしびれが出現し、脳梗塞と診断された症例」

■ 症例②

白山野々市広域消防本部 野々市消防署

「ふらつき・めまいで発症し、脳梗塞と診断された症例」

■ ミニレクチャー

「脳卒中について」

森島 穰 医師



参加された救急隊員の方には、研修受講の証として「受講証明書」を発行しており、日頃の研修実績の一助としてご活用いただいています。

病院
理念

私たちは脳神経外科医療の専門家として十分な医療を提供し社会に貢献します。



医療法人社団 浅ノ川
金沢脳神経外科病院

石川県野々市市郷町262-2
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914
<https://www.nouge.net>

金沢脳神経外科病院 広報誌 第97号 発行:広報委員会
2026年2月28日発行